

令和4年度 事業報告

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(研修事業関係)

- 1 新型コロナウイルスによる感染症の影響下にあったため参加人数を制限し、全国篤志面接委員大会（中央研修会）を3年ぶりに開催した。

地区	日時・場所・参加人員	研修内容
中央	中央研修会 令和4年10月17日（月） 法務省地下大会議室 参加者84名 （委員51名，関係者33名）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演「矯正の現状と課題」 法務省矯正局長 花村博文 氏 ・ 研究発表者 4名 ・ パネルディスカッション 進行 連盟 阿部理事 参加者 発表者4名 国職員2名 川越少刑首席那須昭宏 氏 多摩少首席 大門貴彦 氏

- 2 以下の3管区において矯正管区管内篤志面接委員協議会を開催し、残り5管区においては開催を中止した。

地区	日時・場所・参加人員	研修内容
仙台	令和4年7月8日（金） 青森市 ホテル青森 参加者 52名 （委員 38名，関係者14名）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「加害者家族の現状と支援について」 特定非営利活動法人 World Open Heart 代表 阿部恭子 氏 ・ 研究発表 4名 ・ 研究討議
東京	令和4年11月21日（月） さいたま新都心合同庁舎2号館 参加者 82名 （委員 74名、関係者 8名）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「篤志面接委員の現状と課題～拘禁刑下において期待される役割」 東京矯正管区成人矯正調整官 齋藤 峰 氏 ・ 研究発表 3名 ・ 研究討議

大阪	(誌面による開催) 参加者 管内篤志面接委員、 関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・特別寄稿「いのちの声に呼応するとは」 浄土真宗大谷派僧侶 川村妙慶 氏 ・研究発表 3名
----	-----------------------------------	--

3 初任者研修(中央研修会)を3年ぶりに開催した。

地区	日時・場所・参加人員	研修内容
中央	初任者研修会(第9回) 令和4年12月13日(火)～ 14日(水) 法務省地下大会議室 参加者69名 (委員62名, 関係者7名)	<p>一日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話Ⅰ「矯正行政と篤志面接活動の意義」～刑事施設を中心に～ 矯正局成人矯正課企画官 佐伯 温 氏 ・講話Ⅱ「矯正行政と篤志面接活動の意義」～少年院を中心に～ 矯正局少年矯正課企画官 藤原尚子 氏 ・講話Ⅲ「篤志面接活動の歴史, 制度と現在の課題」 全国篤志面接委員連盟 理事長 室井誠一 ・班別討議Ⅰ 8班 ・講話Ⅳ「面接指導技術」 東京未来大学こども心理学部長 出口保行 氏 <p>二日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話Ⅴ「篤志面接活動を経験して」 全国篤志面接委員連盟副会長 井上 廣 全国篤志面接委員連盟常任理事 佐藤良彦 ・班別討議Ⅱ 8班

4 矯正管区管内篤志面接委員教養訓練を実施した。(大阪管区を除く。)

地区	日時・場所・参加人員	研修内容
札幌	令和5年2月17日(金) 北海道グリーンランドホテルサン プラザ 参加者20名 (委員13名, 関係者7名)	<p>「樺戸集治監と北海道開拓」 前月形町長(月形刑篤志面接委員) 櫻庭誠二 氏</p>

仙台	令和4年11月11日(金) 秋田キャッスルホテル 参加者27名 (委員23名、関係者4名)	「罪を犯した人の更生に向けて～ 心理学の視点からの提案～」 秋田大学教育文化学部教授 北島正人氏
東京	令和5年2月14日(火) さいたま新都心合同庁舎2号館5 階 共用大研修室 参加者86名 (委員79名、関係者7名)	「会話は、言葉のキャッチボール」 落語家 古今亭菊千代氏
名古屋	令和5年2月21日(火) 名古屋合同庁舎第3館7階会議室 参加者41名 (委員38名、関係者3名)	「加害者家族と加害者本人の社会 内支援」 特定非営利活動法人スキマサポ ートセンター 理事長 佐藤仁孝氏
広島	令和5年3月1日(水) 広島合同庁舎1号館附属棟会議室 参加者43名 (委員38名、関係者5名)	「弁護士・付添人活動と矯正施設へ の期待」 弁護士 中村麗子氏 「現状の篤面の活躍の場について」 (グループ討議)
高松	令和5年2月9日(木) JR ホテルクレメント高松 参加者33名 (委員26名、関係者7名)	「マラソンが教えてくれたこと」 三井住友海上陸上部 アドバイザー 土佐礼子氏
福岡	令和5年2月6日(月) 矯正研修所福岡支所第1教室 参加者53名 (委員29名、関係者24名)	「『だから』の生き方 『なのに』の 生き方」 一般社団法人ヒューマンハーバ ーそんとく塾 原田公裕氏 「長崎刑務所における高齢受刑者 処遇及び知的障害受刑者の処遇支 援モデル事業について」 福岡矯正管区 更生支援企画課長 平川勝文氏

(表彰事業関係)

- 1 従来通り、篤志面接活動に功績のあった篤志面接委員20名に対して会長表彰を実施した。
- 2 篤志面接活動に功績のあった篤志面接委員25名に対する法務大臣感謝状の授与に際して祝意を表した。

(慶弔事業関係)

篤志面接委員の慶弔に際して、表敬・慰謝を行った。

(広報・機関誌事業関係)

- 1 ホームページを更新し、内容の充実と広報活動の充実を図った。
- 2 機関誌「全篤連だより」を令和4年7月、同5年2月に発行した。
- 3 研修大会、協議会の記録紙の出版：全国篤志面接委員大会、各管区管内篤志面接委員協議会及び初任者研修会の実施に際し記録紙を発行した。
- 4 再開された全国矯正展において専用のブースを設け、篤志面接活動に関する広報と説明を行った。

(事務局関係)

- 1 事業運営目標達成に向け、その基礎となる次の点に留意した。
 - (1) 引き続き、税理士と契約し財務の指導を受けるとともに、監事による10月までの上半期の中間監査を実施するなど、財務状況の把握を確実にした。
 - (2) ホームページを適宜更新し、連盟からの広報活動の積極化に努めた。
- 2 ネット環境を活用したオンライン会議(例えば常任理事会など)の開催ができるよう、その検証に努めた。
- 3 予算執行について
 - (1) 公益目的事業会計について、JKAからの補助金が前年度とほぼ同額を内示されたところから、あらかじめ地方研修大会の開催及びその準備に必要な経費を調査した上で予算配布し、効率的・効果的な執行に努めた。(結果的には、多くの管区において地方研修大会の開催は中止となった。)
 - (2) 法人会計については、予算の経費節約に努めた。

(その他の事業関係)

特になし